

十月三十一日(日)

十月山行、霊山

報告 □□□



9時49分、紫明峰看板近くにて

参加者は二本松から□□さん、□□□□さん、事務局の三人、川俣から一人□□さん、都合四名。集合は、霊山こどもの村・虹彩館駐車場八時。二本松は事務局宅脇六時三十分、□□さんの車に乗って霊山に向かった。霊山虹彩館上の駐車場着は七時半過ぎ。それでも駐車場は結構沢山の車、交

通整理の人も出ている。実は当日から、「名峰霊山紅葉トレッキング」が始まり、その参加者なのだ。□□さんも既に来ていた。七時三十分記念撮影して出発、縦走開始地点の「湧水の里キャンプ場」へ向かう。工事中で本来の駐車場の下に駐めなければならなかった。その案内看板では紫明峰登山口は右上隅に書いてある。登る途中□□さん

が大声で「センブリだー」。見たら「株立ち」していた。安達太良山でも岳温泉でも「一本すつ」のものしか見て居なかったもので、珍しく感じた。そんな株が他にもあった。良く効く薬草なのに誰も採る人いないのかも知れない。更に上ると管理事務所の脇に「水飲み場」と「水の由来」の看板。「この山に立つ大國様が湧かして下さった」らしい。この辺りからは「エゾリンドウ」。山に近づいて行くので、岩場が現れる。また□□さんが「マメダンゴだ」。八時四十八分、紫明峰入口。此処にも立派な案内看板がある。急坂上って突き当たりの「大國岩」岩の裾廻っている。又□□さんが「トリカブトだ！」本当に植物に詳しい。更に上って「足場作り」の階段上って、洞門潜って「八方観」。福島盆地がキレイ、信夫山の上半分だけが見えた。この後も「足場作り」の機道上下り歩いたり、九時四十七分「紫明峰」の看板。「ここ一連の山をシメイホウと言います」と書いてあり、ここがおそらく「真ん中」。中通りの眺めが素晴らしい。稚児岩の手前から、女神山の左上に霞ヶ城公園の本丸石垣が見える。肉眼では無理で超望遠で撮影した写真で確認した。十時十九分天狗岩、ここで岩の稜線は一段落して、樹林帯の上



センブリの株立ち

り下りとなる。急な坂降りて、十時二十八分日枝神社前の交差点。本場に久し振りに日枝神社にお詣り、土塁の中には正面に日枝神社。奥の本殿両側には、二体の隨身石像があり、ちゃんと守護している。拝殿前には石造りの賽銭箱が、上には丸い穴、重くて動かさなかった。バチ当たると穴の中照らした、白くて丸い物が数個見えた。一円玉かも知れない。左手には千手観音堂。大きな千手観音様だ。頭上でも手を組む形は珍しい。撮影させて頂いた。次は霊山寺跡、十時四十八分、綺麗に刈払われていた。上段の奥の院にも容易に行けた。礎石見事に現れていた。独結清水も開け清水も枯葉に埋もれていたが、手入れすれば、すぐ元に戻る。「史跡名勝 霊山 改訂版」と言う本があり、私は二〇一〇年十一月の、霊山寺跡発掘調査現地説明会で購入していた。とても役に立った。ここからは尾根歩きで、霊山城跡まで行ける。クマザサ見付けたが、霞ヶ城公園の物と違い「隈」が綺麗でない。□□さんが「ムラサキシメジ」見付けた。十一時二十八分釣瓶落着。実はこのおちよと北に同じような岩があり、こちらの方が通る物が無くて、中通り眺め素晴らしい。足下の集落が綺麗に見える。僅かな距離なのだが紫明峰より安達太良連峰より大きく見えている。

十一時五十七分、霊山寺城跡、金華山碑前到着。昼食とした。お客さんが多い。お花見の時の霞ヶ城公園みたいだ。快晴で気持ちが良い。城跡で風も無い。「名峰霊山紅葉トレッキング」の初日、頂度お昼時、みんな弁当広げている。お弁当食べているから当たり前だが、マスク着けている人は目立たない。

ここからは、一般的な霊山登山道、お馴染みの道ちよと気が緩むというか楽になる。まずは十二時三十六分最高峰東物見岩、学問岩、三角点、二ツ岩も見えた。五十六分蜂の戸渡り、宮城県の青森山も見えた。灌木が茂って「望洋台」から海は見えなくなった。少し先まで降りてみたが、藪は同じだった。ここの下には珍しい「赤色凝灰岩」がある。岳温泉岳ダムにある「赤ガンジキ」と言う岩もこれかも知れない。ここの下は「五百羅漢岩」、狭い通り抜けの上に反り返った「男根石」がある。この下には「弘法の突貫岩」、向こうに突き抜けてもいる。「溶岩樹形」様のものか。この下には「大山神社跡」。更に道がある事に気が付いて奥に行ってみた。大きな石の裂け目があり、下部に祠が祀られていて、鉄剣もあつた。女物の毛糸の帽子様のものが供えられていた。巨大な「女陰」だった。石の間に棒が渡してあるの



14時43分、縦走終了

でもお詣りする人があると見える。大事にしたい。十三時五十四分、日暮岩「国司沢」の道と合流、十三時五十八分、見下ろし岩誰も上らなかつたので、私だけ上った。駐車場にはテントがずらりと張ってあって、お客さん待っているようだった。ここから下での見物は、霊山を作っている第三紀溶岩の下「基岩岩花崗岩」が所々で見られることだ。尤も喜んで見たのは私だけで皆はさっさと下がってしまった。十四時二十五分、虹彩館上駐車場着、□□さんの車に乗って、湧水の里駐車場へ向かうとした。駐車場は上も下も大混雑、交通整理員に止められた。訳話して通して貰ったが整理員は「責任取れない」と言っていた。十四時四十三分、湧き水の里駐車場着、これで一周完了。帰りは十五時過ぎ、「霊山閣跡」経由で下山した。

十一月二十三日(月)

夏井川溪谷の紅葉と二ツ箭山

報告 □□□□



今年は春から新型コロナ、そして天候不順で、会山行・登山道整備が中止や延期が強いられ、十月十一月に集中的に行われ、私も十一月六日、十日、十三日(丸札外し)、十七日と参加・協力。二十三日の装備点検は役員だけの事で、夏井川の紅葉と二ツ箭山を計画、いつものメンバーで行く。

川は紅葉が少し残っていたが、朝日に照らされてキレイだった。だが夏井川は昨年の台風で土砂は流れ、川底の石がむきだし状態。川の狭い所は両脇の土手が流され岩が出て、自然の力の恐ろしさを感じられる。白骨化した死の川の様だ。二ツ箭山の大きな駐車場は九十%の混み、先週当たりは路上駐車もあった様だ。いつもの沢コースの登

り、二ツ三本モミジの紅葉が残っているだけだった。沢の登山道も流れ所々補修されている。「べ張り」から上も段差が大きい所もあり、いつもより時間が掛かった(歳のせいカモ)。女体山山頂では狭い登山道の脇で多くの人が食事休憩。私達は何時もの所まで行き、のんびり一時間休憩となる。稜線の登山道は広くキレイに刈払われ歩き易い。山頂から月山新道を下山。途中岩場は土が流されて段差があり、足の短い私は、大変な思いをした。三時三十分無事下山する事が出来た。

帰路、五時頃、対抗車とすれ違いに縁石をこするトラブルもあったが、大事に至らず良かったと思う。夜の車の運転も自粛しなければならぬ歳なのかと、つくづく思った山行だった。

十二月十二日(土)

黒森山登山道 草刈

報告 □□□□

午前妻と買物、天気も良いので午後出かける。会山行で笹がかぶり、露払いを強いられた所。登山口から最初のピークまで上り一時間半、下り一時間。四時には終わる。初めて登山道を切り開いた時に木の根元からキレイに切られていたの



黒森山、下山直前

で、刈払機で刈っても木の根に当たらず、道幅一杯刈っても木の根に当たらず安心してキレイに刈れたと思う。

登山道整備も、その場限りで無く、後々まで考えて、丁寧に整備することが大切だと思う。

編集後記

三八六号

▼新年おめでとうございませう。今の世の中、新型コロナウィルスという、訳の分からない細菌に大混乱で、今も収まっています。町を歩くときはともかく、山登りでもマスクしている人も多くなりました。例会でも参加者はマスクしています。ワクチンなど早く使われて、毎日発表されている感染者数が一桁になる事、期待したいと思っています。

▼会報への個人山行の報告をお願いします。写真だけでも、詩でも、思い出でも結構です。FAXで頂く事も出来ます。



2020年12月5日、黒森山登山道、下山時に採取のGPSデータによる